

令和元年度 2学期学校自己評価シートのまとめ(後期まとめ)

評定：A:できている B:だいたいできている C:あまりできていない D:全くできていない

| 学校教育目標  | 総合評価   |
|---|--|
| 「花とみどりと笑顔の学校」～あふれるあいさつ ひびきあう心～<br>「社会において自立的に生きる力」の育成<br>10年後、20年後に大輪の花を咲かせるための今の創造 | ・学校で大切にしている「ふれあい」「学び」「遊び」については、全体的に意識されて活動がなされている。それが学校全体の安定につながっていると考えられる。本校の子どもたちの成長に必要な力をさらに見極め、その手立てを検討していきたい。 |
| 今年度の重点目標  | 評価(A・B・C) 成果と課題  |
| よくふれあい…「友だちいっぱい」<br>・教師は、子どもが他者とつながることをサポートしたり、子どもと関わり合ったりすることができたか。                | A<br>・状況に応じ、その子に応じた関わりをすることができた。相互理解が進み、関わりに広がりやすかった。関わりを広げ深める活動を仕組んでいきたい。   |
| よく学び …「思いや考えを伝えよう」<br>・教師は、学び方を身につけさせ、思いや考えを伝え合う主体的な授業を行うことかできたか。                   | B<br>・ペアや班などで思いや考えを伝え合う場面や機会を意識して取り入れてきた。ねらいを明確にし、教師主導でなく、子どもの思いや考えがいきる工夫を考えたい。                                    |
| よく遊ぶ …「たくさん遊ぼう」<br>・教師は、ハッピータイム等で子どもたちと一緒に遊び楽しむことができたか。                             | A<br>・休み時間やハッピータイムで子どもに外で遊ぶように働きかけたり、ともに一緒に遊んだりすることができた。教師が子ども同士をつなぐ役割も必要である                                       |

| 領域   | 充点         | 評価項目                                | 評価の観点  | 評価                                       | 成果と課題  |
|------|------------|-------------------------------------|--|--|--|
| 学校教育 | よくふれあい     | 「多様な他者とかかわり合う場」の確保                  | 学校において、地域の様々な大人と関わり合う場を確保し、地域のもてる力を有効活用しようとしている。   | A  | ・クラブ、行事、諸活動等でボランティアや地域の方と関わる場や機会を継続的に設け、つながりを大切にできた。さらに子ども側の意識を高める必要がある。   |
|      | よく学び       | 「教師が子どもと向き合う時間」の確保                  | 朝の学級活動の時間の工夫により、教師が子どもと向かい合い、子どものやる気を高める時間となっている。  | B  | ・子どもたちが自分たちで計画運営したり、授業との関連を考えた活動を取り入れたりするなど各クラス工夫を凝らした時間を確保できた。その結果、安心感、次への意欲へつながった。個別に子どもと話しをする時間もあるとさらに、やる気や自信につながると思え、来年度はその場の設定を考えたい。                |
|      |            | 「連学年研究体制による授業改善」                    | 全職員が専門派遣講師による授業公開や教材研究を通して、授業改善を図ろうとしている。<br>国語、算数を中心とし、児童の「自ら学ぶ力の強さ(学力)」を向上させようとしている。                               | A  | ・連学年ごとの目的にそって、授業改善を図るために学び合うことができた。学んだことを連学年から全体へ広げることが課題である。質の高まる工夫をしたい。  |
|      |            | 「北小学びのスタンダード」(全学年共通で身につける学び方の基本)の推進 | 教師の指導がなされ、以下のことができている。<br>1 話す人は一人。<br>2 呼ばれたら「はい」と返事をする。<br>3 相手に顔と体を向ける。<br>4 相手に聞こえる声で終わりまで話す。<br>5 相手が話し終えるまで聞く。 | B  | ・4月から継続して指導してきているので、意識するようになってきている。全校集会でも話しを聞く姿勢ができてきている。話し合いの時にも活かされている。聞く姿勢としては「話す人は一人」「相手が話し終えるまで聞く」を徹底したいが、主体的、対話的な学びについて、グループ活動等でのつづやきを大切に取上げていきたい。 |
|      |            | 書く(伝える)活動の充実                        | 教師は、日記指導等を通し、児童が自ら学ぶ基礎力(思考力、表現力)を育てようと指導している。  | B  | ・継続して日記を書き、文の書き方を学習させている。内容面での向上も見られるが、ただ書くだけでない工夫を加え、表現力を高めていきたい。   |
|      |            | よく遊ぶ                                | 自主的活動の時間の確保  | 昼休み等の時間が、遊びや、児童の自主的な活動のための時間となるよう指導している。 | B  |
|      |            | 「ハッピータイム」(外遊びの日)等の充実                | 教師は、子どもと共に遊ぶ等、子どもが外遊びに進んで取り組むような働きかけをしている。   | A  | ・遊びに誘ったり、計画を立てたりしてできる限り、子どもたちと一緒に遊ぶようにした。教師もともに遊ぶことでつながりが広がることを大切にしたい。   |
| 学校運営 | 保護者・地域との連携 | 情報の発信                               | 学校(学年、学級)は、教育方針、取組やその成果、連絡など、必要な情報を発信している。   | B  | ・定期的に、または必要に応じて、学年、学級だより等を発行して、子どもたちの様子や必要な情報を知らせることができた。継続していきたい。   |
|      |            | PTAやボランティアとの連携                      | 学校は、PTAやボランティアとの連携を十分行っている。  | A  | ・PTA、ボランティアの方々に支えられている。これからもこの連携を大切に関係をさらに深めていきたい。   |
|      |            | 家庭学習の充実                             | 学校は「紡ぐ」を活用し、家庭学習の習慣化や学習内容の定着・意欲の向上を図る働きかけをしている。  | B  | ・「紡ぐ」を利用することで、家庭学習の確認や習慣化が身につけてきた面もあるが、個人差や家庭の協力、意欲と成果については課題が残る。  |